

Age-related Prevalence of Allergic Diseases in Tokyo Schoolchildren.

出典 Allergology International (1323-8930) 60 巻 4 号 Page509-515 (2011. 12)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2012272639>)

著者 Futamura M 他

調査地域 東京都世田谷区

調査時期 2005 年

調査対象 6~14 歳 (小学生、中学生)

依頼数 小学生 : 29698 人、 中学生 : 9592 人

回収数 小学生 : 23496 人、 中学生 : 5738 人

有効回答数 (率) 小学生 : 23338 人 (78.6%)、 中学生 : 5655 人 (59.0%)

解析対象者 27,917 人 (男子 13,176 人、女子 12,183 人、性別不明 2,558 人)

診断方法 ISAAC

年齢別有症率
6 歳 : 19.7%、
7 歳 : 22.5%、
8 歳 : 25.1%、
9 歳 : 26.9%
10 歳 : 34.8%、
11 歳 : 32.5%、
12 歳 : 33.8%、
13 歳 : 27.8%、
14 歳 : 29.1%

男女別有症率	男	女
6 歳 :	21.2%	17.7%
7 歳 :	23.1%	22.3%
8 歳 :	26.3%	23.9%
9 歳 :	27.1%	25.4%
10 歳 :	35.6%	34.5%
11 歳 :	33.0%	31.9%
12 歳 :	35.2%	32.3%
13 歳 :	29.3%	27.1%
14 歳 :	27.0%	30.1%

調査概要 世田谷区の小中学生の喘息とアレルギー性疾患の有症率を調査した論文。
低学年で喘息とアトピー性皮膚炎が多く、特に喘息は男子に多く、全体では
季節性アレルギー性鼻炎が非常に多くなっていた。